

IFRSリース シミュレーションツールのご紹介



1. IFRSリース会計基準（公開草案ベース）の特徴

2010年9月に公開草案が公表されたリース会計基準。基準の最終化には至っておりません(2012年度中予定)が、大きな方向転換がない限り、会社業績に計り知れない影響を与えることになりそうです。リースの借手にとってのIFRSリース会計基準(公開草案)と日本基準との大きな違いは以下の通りです。

分類をせずにすべて資産・負債計上

従来はリース契約をファイナンスリースとオペレーティングリースに分類し、ファイナンスリースについてのみ資産・負債計上が求められていましたが、公開草案においてはこのような分類をせずに基本的にすべてのリース契約について資産・負債計上が求められています。

資産・負債の計算に際して将来の見積り要素を非常に多く使用

会計数値の作成に非常に多くの見積り要素を使用することが求められています。例えばリース期間についても、実際の契約期間は用いずに再リース契約も含めたトータルでの見積り利用期間を適用することが求められています。

リース期間中に見積りの変更が必要

リース開始当初に行った見積り(リース期間やリース料)が現実と大幅に乖離してきた場合には、リース期間の途中であらためて見積り計算をし直し、差額調整等を行うことが求められています。

2. IFRSリース会計基準（公開草案ベース）が与える影響

1. 業績への影響

従来オペレーティングリースに該当し資産・負債を計上する必要がなかったリース契約についてもすべて資産・負債計上の対象となることから、総資産と負債が増加し、自己資本比率、負債比率、ROA、その他重要な財務指標を大きく変える可能性があります。

従って企業の業績管理制度において従来のKPI目標値の見直し、あるいは新たなKPIの設定等が求められる可能性も出てきます。

また、従来のオペレーティングリースの場合は每期（毎月）定額の費用が計上されていましたが、リース債務の処理で計上される支払利息は実効金利法によってリース期間前半に多く計上されます。従って、従来に比べて費用が前倒して発生する傾向になると思われます。

2. 業務への影響

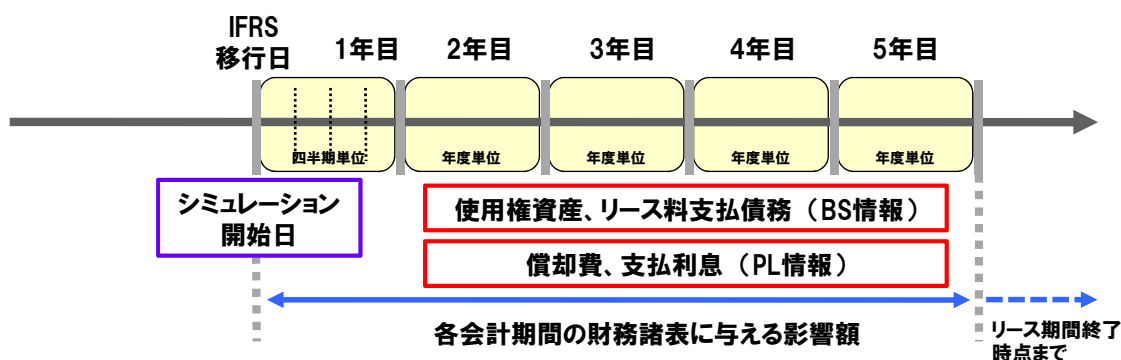
従来のオペレーティングリースでは特別な処理を要しなかった契約にまで資産・負債の計上処理とその後の継続的な会計処理が求められます。

また、従来のファイナンスリースにおいてもリース期間の見積・見積変更に関する検討など、従来にはない業務手続が求められ、業務負荷が増大する可能性があります。

3. システムへの影響

従来は自社でリース会計情報を作成せずに各リース会社から提供してもらった会計情報をもって開示情報とすることも一般的には行われていましたが、IFRSを適用した場合、リース期間といった基本項目ですら企業独自の見積が必要とされているため、今後は企業自身でリース会計情報を作成することが求められてきます。そのため今後は自社においてIFRS基準に対応したリース会計システムを整備する必要性が高まってくると思われます。

3. シミュレーション概要



● IFRSリースシミュレーションツール主要機能

対象期間	（画面での算出結果集計表示） シミュレーション開始日から5年間（1年目は四半期対応） （エクセルファイルでの算出結果出力） シミュレーション開始日からリース終了日までの期間（契約別）
シミュレーション対象事象	1. 再リース契約設定（リース期間、リース料、支払方法） 2. 変動リース料
対象契約	既存契約 及び 将来投資予定契約
分析項目	資産種別・設置場所・リース契約先等、任意に10項目が設定可能

4. IFRSリースシミュレーション対象項目

再リース契約シミュレーション

再リース契約シミュレーション

検索条件

契約番号 資産コード 設置場所1
 設置場所2 資産種類コード 資産種類
 リース開始日 1900/04/01 ~ 2100/03/31 リース終了日 1900/04/01 ~ 2100/03/31
 リース期間 0 ~ 1200 ヶ月 契約金額 ¥0 ~ ¥9,999,999,999
 月額リース料 ¥0 ~ ¥99,999,999 月額保守料 ¥0 ~ ¥99,999,999
 予備項目1 予備項目2 予備項目3
 予備項目4 予備項目5 予備項目6
 予備項目7 予備項目8 予備項目9
 予備項目10 シミュレーションデータ作成済を除く

開始時契約区分 全て 当初契約のみ 再リース契約のみ

リース取引種類JGAAP 全て ファイナンス オペレーティング

黒入オプション 全て あり なし

検索 確定

再リース契約データ作成条件設定

再リース期間 12 ヶ月

月額リース料 (現行月額リース料の) 100%

月額再保守料 (現行月額保守料の) 100%

再リース支払 月払 年一括払 (前払) 年一括払 (後払)

設定 キャンセル

【IFRSシミュレーションの内容】

- ・再リース期間
12ヶ月ごとに、最長1,200ヶ月(10年)
- ・月額リース料、月額保守料
現行契約のリース料、保守料に対するパーセントで設定
- ・再リース支払方法
月払、年一括前払、年一括後払
- ・変動リース料(注1)

(注1)変動リース料は、ツール上で変更するのではなく、変動リース料をエクセルファイルから取込む方法によりシミュレーションを行います。

(注2)検索条件は、単一だけでなく複数条件による設定も可能です。

5. 計算結果出力例 画面

既存契約、将来契約及び全体合計額を、それぞれ集計して画面に出力します。画面出力は、シミュレーション開始から5年分になります。(1年目は4半期ベースでも集計します。紙面の都合で、3年目以降が切れています。)また、計算結果は、エクセルファイル(Excel2007形式)で出力可能です。

IFRSシミュレーション結果(資産・負債)

シミュレーション開始日 2011/04/01

既存/ 将来区分	資産/ 負債区分	科目等	1年目					2年目
			期首	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	末残高
既存契約	資産	使用権資産	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236
		使用権資産減価償却累計額	¥0	¥8,899,950,974	¥17,799,895,492	¥26,696,571,735	¥35,578,038,420	¥70,458,718,4
		使用権資産簿価	¥285,366,303,236	¥276,466,352,262	¥267,566,407,744	¥258,669,731,501	¥249,788,264,816	¥214,907,584,7
将来契約	負債	リース料支払債務元本残高	¥285,366,303,236	¥276,960,389,989	¥268,470,213,160	¥259,904,804,814	¥251,242,507,250	¥216,705,361,3
		使用権資産	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
		使用権資産減価償却累計額	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
全体	資産	使用権資産	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236	¥285,366,303,236
		使用権資産減価償却累計額	¥0	¥8,899,950,974	¥17,799,895,492	¥26,696,571,735	¥35,578,038,420	¥70,458,718,4
		使用権資産簿価	¥285,366,303,236	¥276,466,352,262	¥267,566,407,744	¥258,669,731,501	¥249,788,264,816	¥214,907,584,7
全体	負債	リース料支払債務元本残高	¥285,366,303,236	¥276,960,389,989	¥268,470,213,160	¥259,904,804,814	¥251,242,507,250	¥216,705,361,3

IFRSシミュレーション結果(費用)

シミュレーション開始日 2011/04/01

既存/ 将来区分	科目等	1年目				2年目
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
既存契約	使用権資産減価償却費	¥8,405,913,247	¥8,490,176,829	¥8,565,408,346	¥8,662,297,564	¥34,123,795,987
	支払利息	¥2,825,705,360	¥2,741,366,091	¥2,656,181,017	¥2,570,072,382	¥10,793,324,850
	費用計	¥11,231,618,607	¥11,231,542,920	¥11,221,589,364	¥11,232,369,946	¥44,917,120,837
将来契約	使用権資産減価償却費	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
	支払利息	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
	費用計	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
全体	使用権資産減価償却費	¥8,405,913,247	¥8,490,176,829	¥8,565,408,346	¥8,662,297,564	¥34,123,795,987
	支払利息	¥2,825,705,360	¥2,741,366,091	¥2,656,181,017	¥2,570,072,382	¥10,793,324,850
	費用計	¥11,231,618,607	¥11,231,542,920	¥11,221,589,364	¥11,232,369,946	¥44,917,120,837

6. リース新基準改訂の動向

リース会計の最終基準化は、当初の予定から大きく遅れています。IASBからは、最終基準化は2012年度の予定であることが公式に発表されています。

リースの公開草案は、公表後に会計士や企業から多くのコメント(ほとんどが会計処理に対する懸念)が寄せられており、IASBとFASBの再検討の結果、リース期間や変動リースの取扱いなど多くの点が変更となる見込みです。今後の動向ですが、2011年度中に、変更点を反映した公開草案が再度公表される予定です。

なお、シミュレーション計算を行うツールは、2010年9月に公表された公開草案の「使用権モデル」をベースに開発しております。公開草案公表後のIASBとFASBの再検討においても、借手のリース会計処理については、「使用権モデル」を用いることが確認されております。

株式会社クロスフィールドはビッグ4出身の公認会計士が中心となって設立された会計領域に特化したコンサルティングファームです。
IFRSに関する調査・計画立案フェーズから整備、導入、移行のすべてのフェーズに至るまで、クライアントの目線で幅広いソリューションをご提供致します。

【お問合せ先】

〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16北青山吉川ビル5F

株式会社クロスフィールド

担当:松元良範

TEL:03(6439)9630 E-mail:contact@crossfields.co.jp